

A Study on Creative Educational Methods Utilizing Active Listening

ザリンス, マーティンス

<https://hdl.handle.net/2324/7182478>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (芸術工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	Zarins Martins			
論 文 名	A Study on Creative Educational Methods Utilizing Active Listening (アクティブリスニングを活用した創造的教育方法に関する研究)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	知足 美加子
	副 査	九州大学	教授	平井 康之
	副 査	九州大学	教授	中村 美亜

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、学校教育における外国語のコミュニケーション能力の育成のための「アクティブリスニング」を促す創造的な教育方法の開発を目的とした研究である。近年、外国語教育における日本人生徒の「自信のなさ」や「他者に対する関心の低さや恐れ」がコミュニケーション能力育成の問題となっている。本研究では生徒自身が創造の主体になり他者や周囲への意識喚起を促すためのアクティブリスニングに着目し、その有効性の検証および教育方法の開発を行うものである。第1章では、アクティブリスニングに関する研究先行研究調査を行い、コミュニケーション能力育成には、他者を傾聴する機会が交互に発生するような授業デザインが必要であり、さらに創造性を引き出すことでその効果が高まるのではないかという着想を得ている。第2章では、アクティブリスニングを促す教育方法の有効性を確かめるため、演劇のロールプレイ手法を活用した「傾聴と創造のプロセスを含む授業案」の実践研究を行なっている。生徒が創造した言語内容をロールプレイ学習させた場合、互いの傾聴と関心を喚起すると共に、暗記力を向上させる可能性を示した。第3章から第5章では、アクティブリスニングを用いた授業デザインの開発と実践を行なっている。まず、外国人を含む成人グループによる「サウンドデザイン」の授業実践は、コミュニケーションや作曲への心理的抵抗を下げ、自信を向上させることが確かめられた。次に、コロナ禍において他者との関わりがより困難となった視覚障がいをもつ生徒を対象に行った、サウンドデザインの授業について説明している。他者が創造した音を傾聴し共創するプロセスによって、コミュニケーションが活性化することが定性評価によって確かめられている。最後に、「黙想」による授業デザインの実践から、周囲の環境音を共に傾聴するという経験によって、他者への関心や学習効果を高める可能性が示唆されている。以上、本論文はコミュニケーション能力育成における「アクティブリスニング」の有効性を明らかにし、ロールプレイやサウンドデザイン、周囲の音を共に傾聴する黙想の経験を取り入れた授業デザインを考案し、検証を行った。その結果、本論文は複数の創造的な方法を明らかにしたが、その中で数値データによって効果が認められたものは、自主的に創造したカリキュラムの暗記とサウンドデザインであった。授業デザインにおいて、他者の創造への興味関心を契機とし、身振りや音など非言語によって引き起こされるアクティブリスニングを用いて「交互に傾聴する必要性と状況」を設計することが、言語教育やコミュニケーションへの積極的な態度を育成するという可能性が示された。

論文審査では、アクティブリスニングに着目し、創造的な要素を取り入れて授業デザインを行った点が評価されたものの、各実践が研究目的に対して何を明らかにしているかが整理されていないという指摘があった。そのため、研究目的に沿って論旨を整理し再度説明を行った。その結果、本論文におけるアクティブリスニングを促す教育方法の独自性が認められた。本論文は、外国語のコミュニケーション能力の育成に発展に寄与するものとして総合的に一定の評価をされており、博士（芸術工学）の学位に値すると結論づけられた。